

令和3年度 第1回教育課程編成委員会 議事録

日時：令和3年10月21日（木） 午後3時10分～午後4時10分
場所：5階カンファレンスルーム

出席者：(学外)

- A 山口県看護協会 会長
- B 山口県介護福祉士会 会長
- C 看護学科実習病院 副院長兼看護部長
- D 介護福祉学科実習施設 施設長
- E Y I C看護福祉専門学校 介護福祉学科卒業生
- F Y I C看護福祉専門学校 看護学科卒業生

(学内)

- H 校長
- I 副校長
- J 付帯事業推進課長
- K 教務統括兼看護学科学科長
- L 教務課長兼介護福祉学科学科長
- M 看護学科 実習調整主任
- N 事務長
- O 書記：教務課長補佐

1. 校長挨拶

先だって、学校関係者評価会議で委員の方々から意見をうかがった。教育課程編成委員会では、カリキュラムに対する意見を皆様からうかがう場である。看護師・介護福祉士の実践的な教育に対して現場から実践的な立場で教育に対する指摘をしていただきたい。教育の質に対する担保、あるいは向上のために忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 委員紹介

3. 議事

令和3年度教育課程編成に基づく運営状況について（中間報告）

【看護学科】

K：資料Ⅰを参照、説明

【介護福祉学科】

L：資料Ⅱ－1・2を参照、説明

議長：中間評価からの質疑応答

A 委員：看護学科の新カリキュラムにある地域包括ケアシステムはどのような内容なのか？

K：新カリキュラムでは、地域・在宅看護論が始まる。在宅看護論と似たところがあるが、地域を知ることから始め地域とヘルスケアとのつながりなどの理解をしていく。実習は、Ⅰ～Ⅲまで展開をしていく。

O：実習Ⅰでは、地域を知ることから始め、地域の方々と話したり地域を回ったりすることから行う。実習Ⅱでは、二次予防や外来などから地域の方が健康についてどのように考えているかなどを学ぶようにしている。

D 委員：介護の場でも、エビデンスのあるケアが求められている。新カリキュラムでは、どのように反映されているのか？

L：新カリキュラムになる以前も取り入れてあったが、教科書も含めケアに必要な科学的根拠を学べるようにしている。

D 委員：介護の場も広がっているが、障害に対する介護を学ぶ機会はあるか？

L：実習場所などに取り入れて、学べるようにしている。

A 委員：看護ではなく利用者としての意見だが、介護でも清潔と不潔の区別を介護士の方々にもしっかりと教えてほしい。デイサービスなどで口に入れるものと楯が一緒に入っている場面がある。自分の生活場面でも嫌ではな

いかと思うが。ホームカミングデイのアンケートにも、清潔と汚染に対して不安があるようなので基本をしっかり教えてほしい。

E 委員：施設の側から考えると、洗濯をしてたたんでお返りするなどはサービスに入る。介護保険の範囲から外れるので、接遇などにはいる。踏み込んだ指導が必要となる。

A 委員：介護福祉士や看護師の行動で、その施設のイメージが変わる。YIC の卒業生は、他とは違うと思わせるような指導をしてほしい。

L : 科目では、生活支援技術Ⅱの中で学んでいる。実習で清潔や汚染の区別について気づく学生も多い。

C 委員：人を育てることは難しいと思う。現在は、待ち合わせをするのに話をしなくてもできる。昔の5S活動のような、具体的な指導が必要である。現在は省略の文化があり、指示をただけでは伝わらない。忙しくて少しぐらいいいや思い、ルールから外れて省略をしてしまう危険がある。してほしい時には、「要望」と「理由」を伝えるようにスタッフには指導している。「要望」だけを伝えると、相手の行動は変わらず不満になる。世代が違う人に話すには、認知フレームが異なることを意識して、コミュニケーションをとることが大切である。行動が変わることを目指して、うるさがられるけれどもかかわるようにしている。

F 委員：地域包括ケアシステムについては、今現場で勉強をしている最中である。病院としても訪問看護や施設などの提案できる場は限られ、本当にその人の思いなのか迷う。他の職種が連携できることが重要なので、多職種連携のためにもサマリーの書き方とかカリキュラムにあるといいかもしれない。対象を次のステージにうまく移れるように基礎から学ぶのは重要である。

C 委員：想像力のない人が多く、それをしないとどうなるのかを促さないと考えられない。場をふむと変わってくると思うので、対象の帰りたい気持ちを想像させる時間を与えるように、例えばカンファレンスで投げかけるなどすればその人に合った援助が考えられるようになるかもしれない。

4. その他

D 委員：介護福祉士を養成する高校や大学が、募集を停止して人材を育てる場所が減っている。募集をしても、定員割れになると聞いている。YIC 看護福祉専門の介護福祉学科は、貴重な存在なので現場と連携していきたいと思う。

B 委員：宇部市では昨年新しい介護士の就職が一人もいなかった。介護現場だけでなく、市でも取り組みをしている。離職が多い職業であり、人材を育てるだけでなく職場の環境を整えていく。ホームカミングデイの取り組みで、現場に新人の声を伝えていただいたのは、とてもよい取り組みだと思う。

司会：第2回教育課程編成委員会は令和4年2月に開催予定